

みんなで一緒に考えよう 橿原市の未来!



橿原市の未来を 一緒に考えてみませんか

橿原市では、よりよい未来に向けて、橿原市が進めるまちづくりの方向を示した総合計画があります。市役所では、この計画に基づいて、市民のみなさんと一緒になってこれからさまざまな取組みを進めていきます。
ぜひ一緒に、橿原市の未来を考えてみませんか。

STEP
0

あなたの7年後をイメージしてください

STEP
1

総合計画ってどんな計画？

STEP
2

橿原市にはどんな課題があるの？

STEP
3

人口が減少するとなにが問題なの？

STEP
4

市民のみなさんはどう思っている？

STEP
5

橿原市の課題をどのように解決していくの？

STEP
6

未来の橿原市のためになにをするの？

STEP 0

あなたの7年後をイメージしてください

あなたはどんな生活をしていますか？

あなたは誰と生活をしていますか？

それを実現するためにはなにが必要だと思いますか？

自分自身でできることはなんだと思いますか？

家族や友達とできることはなんだと思いますか？

STEP1

総合計画ってどんな計画？

総合計画は、みなさんが住むこの橿原市を、どんなまちにしていくのかを決める大切な計画です。

目指すまちの姿「将来ビジョン」を定め、その実現のために橿原市が直面している課題を、一つひとつどのように解決していくかを示しています。

将来ビジョンは、「はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら」です。この橿原に住むことに喜びや誇りを感じることや、この地を訪れる人にも来てよかった、住んでみたいという魅力を感じるまちにしたいということから、この将来ビジョンを考えました。

●将来ビジョン

はじまりから未来へ、 つながりきらめくまち かしはら



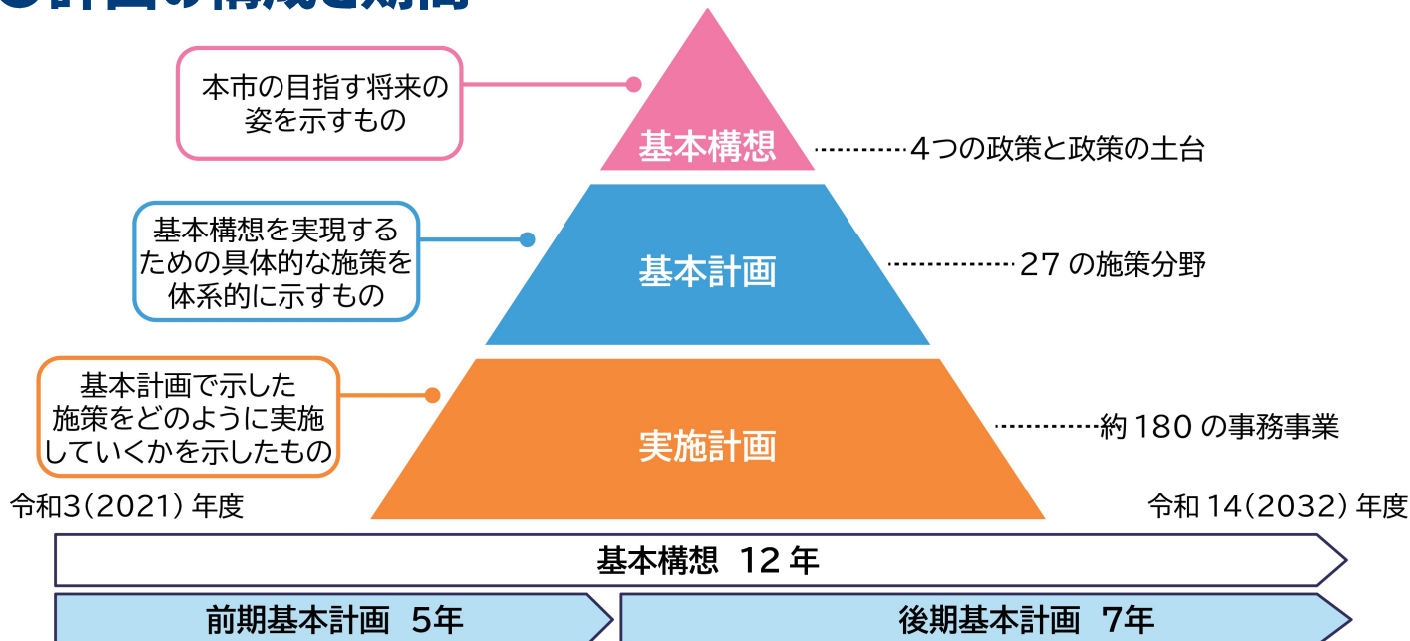
「はじまりから未来へ」には2つの意味を込めたよ

- 「日本国はじまりの地」という歴史の深さを次世代に継承しながら、来たる「超スマート社会」にも対応していきます。
- 「人生100年時代」を迎えるなかで、生まれてから100年、生涯安心して暮らしていくことができる市になることを目指します。

「つながりきらめくまち」は人中心のまちだよ

- 橿原市と関わるすべての人が、人や物、縁、歴史、自然などにつながることで、活気があふれてきらめくような人中心のまちを目指します。

●計画の構成と期間



STEP2

檀原市にはどんな課題があるの？

①人口減少と少子高齢化社会

国の推計によると、日本の人口は令和47(2065)年には9,159万人まで減少し、檀原市の人口も約11万8千人から約7万2千人まで減少すると見込まれています。人口減少と少子高齢化に伴い、支えられる人に対して支える人が少なくなっています。



②災害をはじめとするさまざまな危機の高まり

大規模な地震や風水害が頻繁に発生しています。特殊詐欺やサイバー犯罪、高齢ドライバーによる事故など日常生活における危機も増しています。常日頃から危機に備えることが求められます。



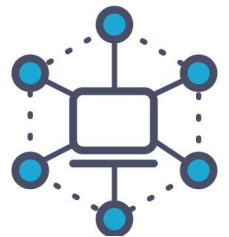
③感染症・健康危機による社会システムの変容

医療提供体制の柔軟性の確保、支援体制の平時からの整備、社会的包摂とセーフティネットの拡充が不可欠です。日頃から情報収集や協力体制の構築などの取組みが求められます。



④急速に進化するデジタル化と技術革新

高齢者や障がい者、情報弱者への配慮を含めた「誰一人取り残さない」政策の推進が必要です。行政・教育・福祉・地域のあらゆる分野において、デジタル技術を前提とした運用体制の整備と、情報リテラシーの育成が不可欠です。



⑤多様性の尊重と支え合い

ライフスタイルの変化に伴い、地域や家庭における支え合いの基盤や、人とのつながりが弱まりつつあります。互いが個性や生き方を尊重し合えるような共生社会の構築が求められます。



⑥「持続可能」な自治体経営

「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」という世界の潮流を踏まえ、限りある資源を有効に活用しながら、檀原市の仕組みを持続可能な形に最適化していく必要があります。



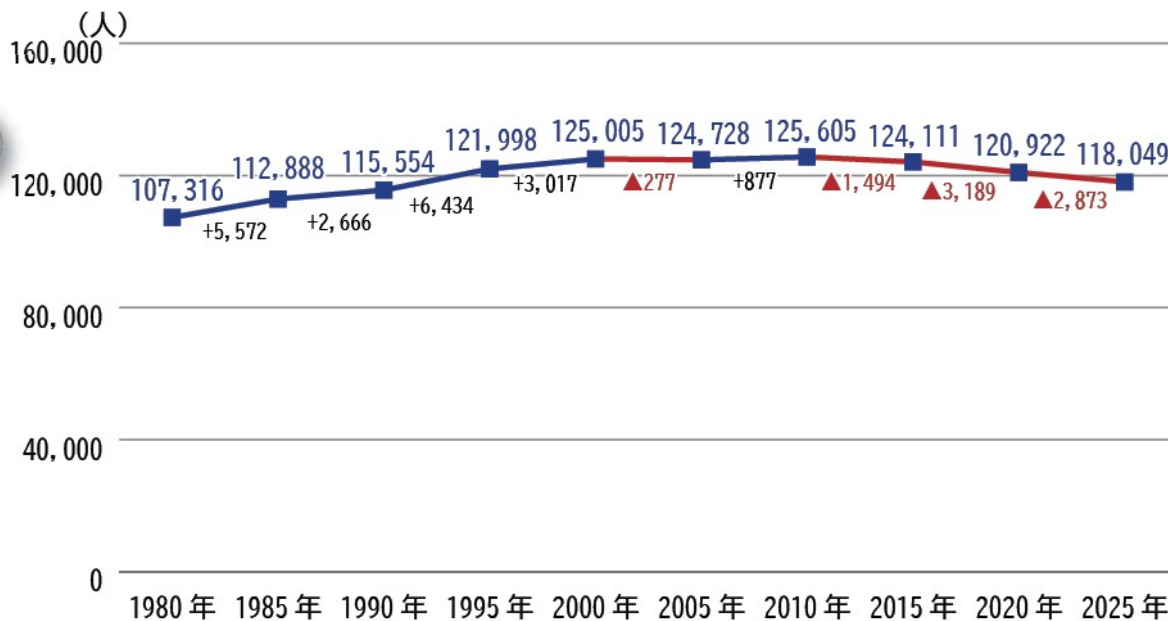
STEP3

人口が減少するとなにが問題なの？

橿原市の人口は約11万8千人です（令和7(2025)年10月1日現在）。平成22(2010)年頃から人口減少が進んでおり、このまま何もしなければ、今後40年間で約4.6万人も減少することが見込まれています。

そこで、この計画のさまざまな取組みを通じて、人口減少に歯止めをかけることが大切になっています。

橿原市の人口推移

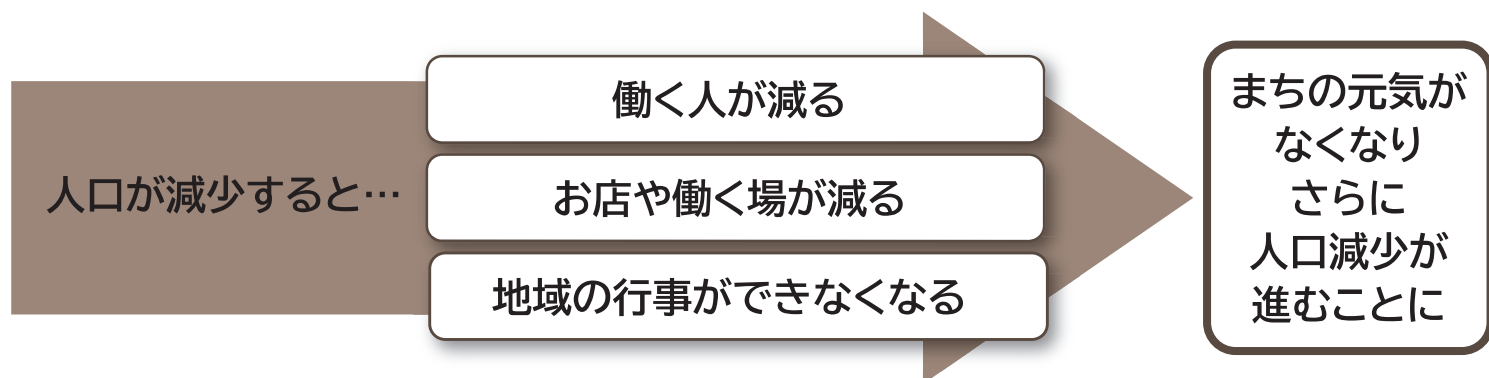


15年前から人口減少が
はじまりました

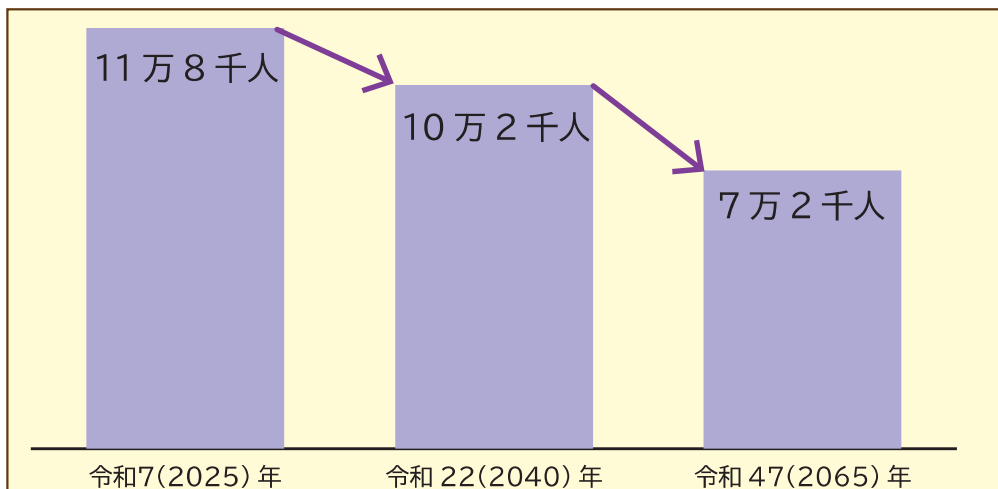


出典：各年国勢調査

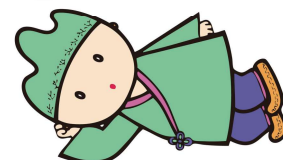
ただし、2025年は住民基本台帳（令和7(2025)年10月1日現在）



2065年には、人口が現在の6割程度になると見込まれています。



なにもしないと、
約4.6万人も
減っちゃう



STEP4

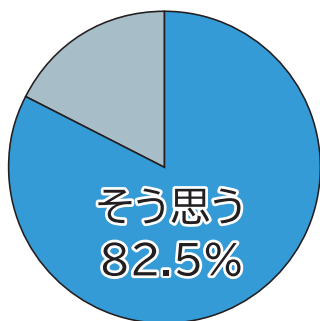
市民のみなさんはどう思っている？

市民のみなさんのご意見としては、榎原市は住みやすいまちとして高い評価を受けていますが、榎原市に住み続けたい人、榎原市に愛着を感じる人はだんだんと少なくなっています。

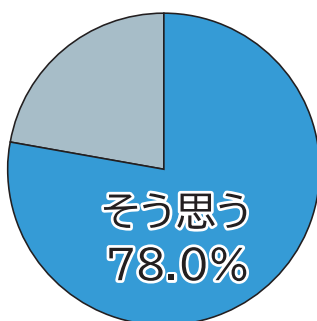
市民アンケート結果（令和6(2024)年11月1日現在 18歳以上の市民 5,000人 無作為抽出）

●榎原市の住みやすさや愛着

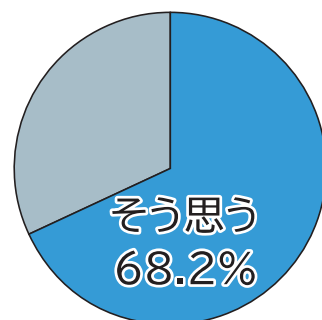
榎原市は住みやすい



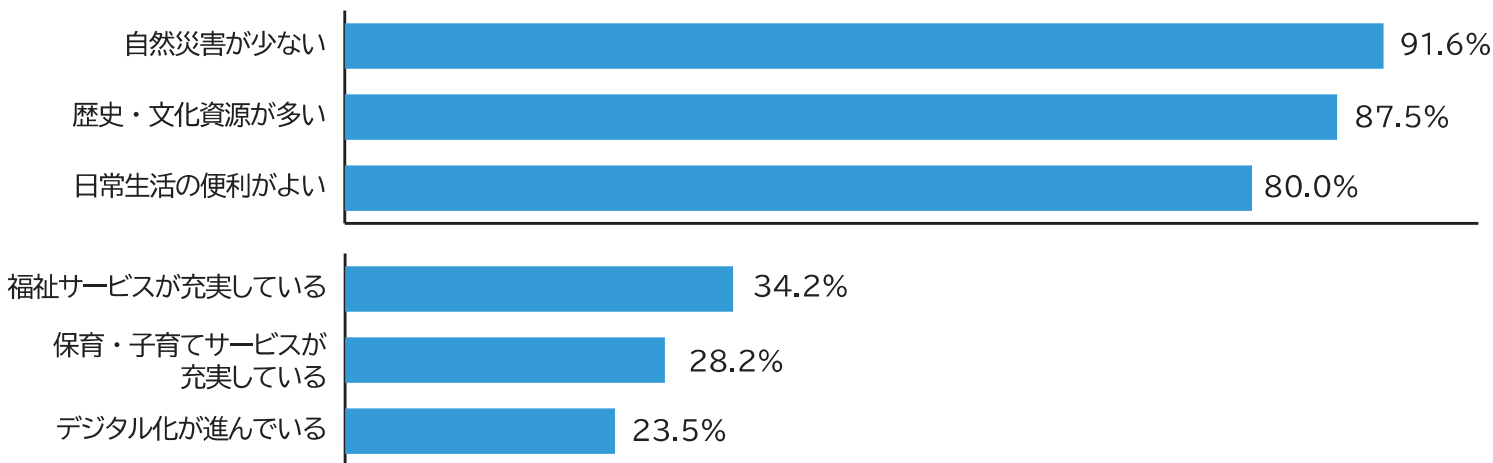
榎原市に住み続けたい



榎原市に愛着を感じる

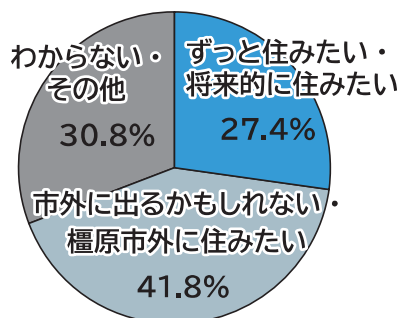


●榎原市のイメージ そう思う人の割合

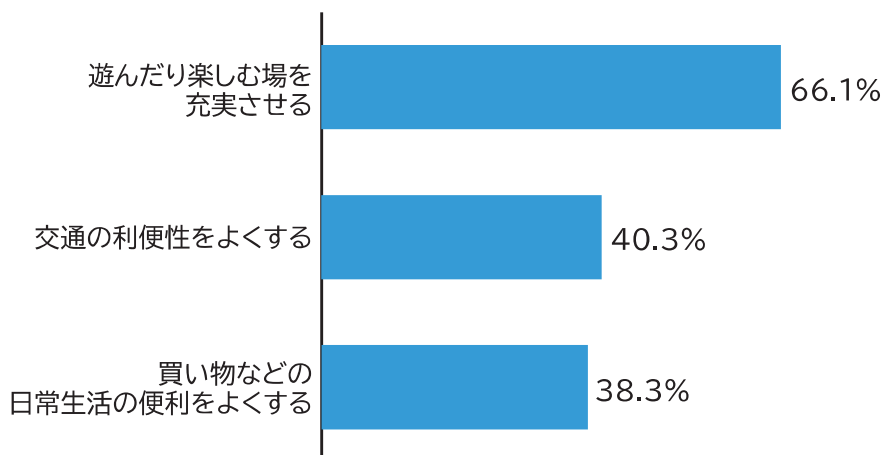


中学生アンケート結果（市立中学校 全6校（夜間中学を除く）の中学2年生 921人対象）

●榎原市に住み続けたいか



●住み続けるために必要だと思うこと



市外に出たい人が多いね

STEP5

橿原市の課題をどのように解決していくの？

目指すまちの姿である「はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら」を実現するために、「4つの政策」と「政策の土台」からなる政策体系を構築し、政策を実行していきます。その政策を具体的に実行していくため、27の施策分野を関連づけています。27の施策分野において、それぞれの課題に対する取り組みを実行していきます。

これらの取り組みを実行していくことで、将来ビジョンを実現し、人口減少をはじめとする橿原市を取り巻く課題を解決していきます。

4つの施策はまちと暮らしのすべての分野をカバーしているよ



●総合計画の政策体系

はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら

I ひとづくり ＜活躍＞

保育・幼児教育/
学校教育/
子育て・子育て/
生涯学習・社会教育/
科学・文化芸術/
スポーツ

みんなが活躍し、
個性輝くまち

II ひとづくり ＜安心＞

健康・医療/
地域福祉/高齢福祉/
障がい福祉/
市民協働/人権

みんなが健やかに、
支え合って
暮らせるまち

III まちづくり ＜安全＞

防災/防犯/交通/
道路・橋梁・河川/
住環境・建築/
地球環境/生活環境/
下水道

みんなが安全に、
快適な環境で
生活できるまち

IV まちづくり ＜発展＞

公園・緑地/
まちづくり・景観/
歴史・文化財/
観光・交流/
商工業・しごと/
農業

みんなが活力と
魅力を生み、賑わい
あふれるまち

V 政策の土台

行政運営

市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営



「政策の土台」は他の
4つの政策を進めていくための
市役所の運営や協働の
仕組みだよ

I みんなが活躍し、個性輝くまち

子どもからお年寄りまですべてのライフステージにおいて、一人ひとりが活躍できるまちづくりを進めます。

- ① 保育・幼児教育
- ② 学校教育
- ③ 子育て・子育て
- ④ 生涯学習・社会教育
- ⑤ 科学・文化芸術
- ⑥ スポーツ



II みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち

市民の誰もが安心して暮らしていくことができるように、みんなで助け合い、支え合うことができるまちづくりを進めます。

- ⑦ 健康・医療
- ⑧ 地域福祉
- ⑨ 高齢福祉
- ⑩ 障がい福祉
- ⑪ 市民協働
- ⑫ 人権



III みんなが安全に、快適な環境で生活できるまち

自然環境と人間社会が調和した安全で「持続可能」なまちづくりを進めます。

- ⑬ 防災
- ⑭ 防犯
- ⑮ 交通
- ⑯ 道路・橋梁・河川
- ⑰ 住環境・建築
- ⑱ 地球環境
- ⑲ 生活環境
- ⑳ 下水道



IV みんなが活力と魅力を生み、賑わいあふれるまち

市民が檀原市への誇りや愛着を持ち、賑わいや活力を生み出すまちづくりを進めます。

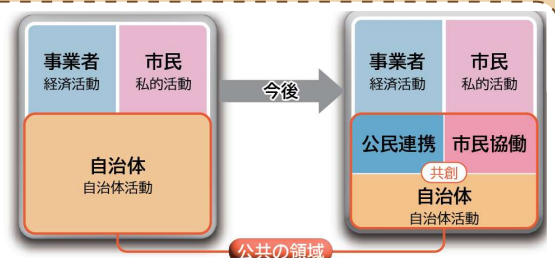
- ⑳ 公園・緑地
- ㉑ まちづくり・景観
- ㉒ 歴史・文化財
- ㉓ 観光・交流
- ㉔ 商工業・しごと
- ㉕ 農業



V 市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営

人口減少や少子高齢化により経営資源が減少するなかで、効率的・効果的な行政運営を行います。

- ㉖ 行政運営



STEP6

未来の檀原市のためになにをするの？

檀原市をもっとよいまちにするために大切なこと



いま住んでいる人が安心して住み続けられる



市外に転出してもまた帰ってきたくなる



新たに移り住む人を増やす

基本目標 1

地の利を活かしたしごとの場づくり
～誰もが活躍できる働き場の提供・支援～



基本目標 2

新たな人の流れや交流を盛んにする魅力づくり
～歴史・文化・自然を活かして創る周遊コンテンツと魅力発信～



基本目標 3

安心して子どもを産み育てられる環境づくり
～専門家と地域で紡ぐ誰一人取り残さない子育て支援・教育～



基本目標 4

安心して健康に暮らせるまちづくり
～一人ひとりが豊かに暮らせる「健幸」の普及～



4つの基本目標に基づいた施策を進めることで
市民のみなさんが安心して暮らすことのできる魅力的な檀原市にしていくよ

第3期 檜原市教育大綱（檜原市の教育）

教育大綱とは、市長と教育委員会が連携して教育や学術、文化の振興を地域の実情に応じて進めるための計画です。教育に関するだけでなく、「学び」に関するさまざまなことに目標を掲げ、施策を推進していきます。

総合計画とともに、新たな教育大綱をつくりましたので、未来の檜原市を担うみなさんにも、檜原市の思いを共有してもらいたいと考え、掲載しています。

基本目標1

郷土檜原に誇りを持つ
教育の推進

基本目標2

人を思いやる優しい心をはぐくむ教育の推進

基本目標3

「自分らしい在り方」を探究する教育の推進

基本目標4

自ら学び、考え、意見を述べる力、未来を生き抜く力を培う教育の推進

基本理念

日本国はじめりの地、檜原に誇りを持ち、人を思いやる「優しい心」、変化に対応する「しなやかさ」、困難に挑む「力強さ」を併せ持ち、「自分らしい在り方」を探究しながら行動を重ね、自らの未来を「生き抜く力」をはぐくむ檜原の教育

基本目標5

活力ある生活を営むための心身の体力をつくる教育の推進

基本目標9

地域や家庭で学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進

基本目標8

教育の基盤となる教育環境、体制の推進

基本目標7

多様性を認め合い、共生社会をめざす、誰一人取り残さない教育の推進

基本目標6

デジタル社会に対応する教育の推進

檜原市では、教育大綱の基本理念・教育目標を達成するために、下記の方針に基づいて教育・生涯学習を推進していきます。

I 就学前の保育・教育、学校教育

- 方針
1. 就学前の保育・教育の充実
 2. 学校教育の充実
 3. 発達相談・療育の充実
 4. 人権教育の推進



II 生涯学習・社会教育

- 方針
1. 生涯学習・社会教育の推進
 2. 文化芸術の推進

あなたがイメージした 7 年後を、総合計画で実現できるでしょうか。



こだいちゃん さららちゃん

橿原市第4次総合計画
< 中学生版 >

発行： 橿原市
発行年月： 令和 8 (2026) 年 3 月
編集： 橿原市企画政策課
〒634-8586 奈良県橿原市八木町 1 丁目 1 番 18 号
Tel : 0744-22-4001 (代表)

計画の本編は市ホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.kashihara.nara.jp/>

お問い合わせは橿原市企画政策課まで。Tel : 0744-21-1108 (直通)